

アシステック通信

ASSISTECH

2014

71号

—ロボット介護推進プロジェクト本格始動—

展示説明会開催される(関連記事P9)



目次

- P.1 ご挨拶
- P.3 平成25年度研究成果から
- P.7 平成26年度 私たちの主な研究テーマ
- P.9 ロボット介護機器展示説明会開催される
- P10. 家庭介護・リハビリ研修センター課からのご案内
- P.14 研究開発成果の紹介
- P.15 アシステック掲示板
 - ・平成26年度ひょうごユニバーサル社会づくり推進大会
第22回福祉のまちづくりセミナーのご案内
 - ・小児筋電義手バンク設立のご案内とお願い



ご挨拶

「世界と戦える研究所を目指して」

2014年4月1日をもって所長を拝命しました。研究所をさらに一層発展させるために必要なことを私なりに考えてみました。まず研究所の戦力(研究能力)を冷静に分析し、到達できる目標を掲げて確実に遂行することではないかと思えます。次に、強みは何かと考え、それに気づき、それを生かすことです。研究所は中央病院に隣接しているという大きな利点があります。現場のニードの把握による企画・研究開発、さらに開発された製品の臨床応用とフィードバックが得られやすい環境にあることが強みで



す。このことは、机上の空論ではなく、医療・福祉介護現場に本当に必要なものを提供できる基盤を持っていることに他なりません。第3に、積極的に他の研究機関や大学、企業と連携し、共同研究開発を推進することが肝要です。幸いにも、現在ミュンヘン工科大学に代表される多くの機関と連携がなされています。最後に、最も重要なことは、研究員個々が世界の研究者と勝負するのだ、という意気込みと闘争心を持つことです。井の中の蛙にならぬよう、国際的な視野の中に己を置き、常に向上する姿勢を持つことが重要であると思えます。「言うは易く、行うは難し」ですが、これらの四つの事柄は決して実行不可能なことではありません。これらを達成すれば、きっと研究所は「世界と戦える研究所」になるだろうと思えますし、そうなると思は信じています。どうぞ皆様、変わらぬご支援と激励を賜りますようお願い申し上げます。

所長 陳 隆明

参与 ^{さから} 相良 二郎

次長 西村 靖彦

16年ぶりに非常勤の参与として舞い戻ってまいりました。16年の間に世の中は大きく変わり、当研究所も建物はそれほど変わっていませんが、名称、組織、顔ぶれなどが大きく変化を遂げており、浦島太郎のような心境です。



団塊世代が65歳以上となる2015年、そして彼らが後期高齢者となる2025年に向けて、誰もがいきいきと暮らせるまちづくりはますます重要な課題となります。現在、高齢者の1/4は認知に問題を有しており、今後さらなる増加が見込まれています。高齢者単独世帯や高齢者のみの世帯も増加することでしょう。

障害のある人に対しても、障害者基本法の改正と障害者総合支援法ならびに障害者差別解消法の施行に対応する取り組みが喫緊の課題として求められ、研究所もこれらに対応していかななくてはなりません。

研究所は設立から21年目に入りました。ここまで育て上げられた関係者の皆様に感謝しつつ、初心に戻って次のステップを目指していきたいと思えます。週1日の非常勤ですので十分な戦力とはなりませんが、これまで同様ご指導、ご協力くださいますようお願い申し上げます。激励をお待ちしています。

この4月に福祉のまちづくり研究所次長に就任しました西村です。よろしくお願いします。



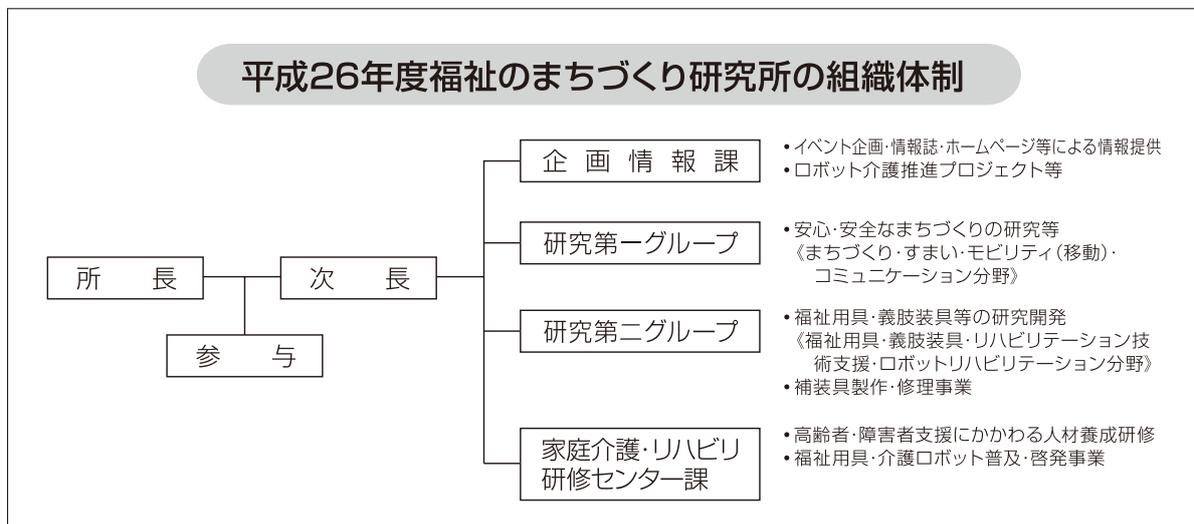
当研究所は、平成5年10月に福祉のまちづくりを推進する全国唯一の研究機関として発足以来、20年の歩みを刻んできました。この間、「ひと」「もの」「情報」「まち」「参加」に関わる多様な研究、研修、情報発信に取り組んできました。私自身が関わってきた様々な障害福祉行政の場面で、研究所の活動を見聞きし、時にはその成果物を手にして仕事に臨む場面もありました。

そして、平成26年度、研究所は次の20年に向けて新しい歩みを始めようとしており、私は研究成果を発信していく側に身を置くことになりました。障害福祉行政に携わる中で得てきた知識、経験、感覚を少しでも研究所の活動に生かしていければ、と思っています。

研究所の仕事に就いて数か月、最も印象に残っている言葉、それは「人はまちへ、まちは人を」です。



平成26年度福祉のまちづくり研究所の組織体制



福祉のまちづくりアドバイザーによる チェック&アドバイス制度

研究第一グループ
専門員 難波 健

「すべての人々が、一人の人間として尊重され、等しく社会参加の機会を持つことにより自己実現を果たせる社会の構築」を目指してH4.10に制定された「福祉のまちづくり条例」は、H22.12の改正により「県民の参画と協働による福祉のまちづくり」の章が追加され、「利用者の意見を尊重した特定施設の点検及び助言に関する制度」(通称「チェック&アドバイス制度」)が創設されました。

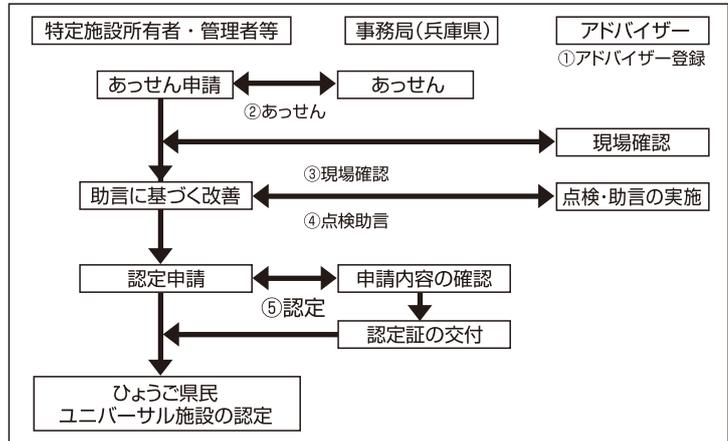


図 チェック&アドバイス制度の流れ

この制度は条例に基づく特定施設に

ついて、建築、福祉に関する専門家や外国人、障害者が福祉のまちづくりアドバイザーとして利用者に配慮した施設整備や運営をチェックし、基準の点検やアドバイスを行います。そして助言内容を適切に反映した施設整備や管理運営の改善を行った施設については「ひょうご県民ユニバーサル施設」の認定の手続きを経て認定証を受けることができます。

また、「福祉のまちづくりアドバイザー」として登録された者の知識と見識を高めるためにH25年度に県が主体となって表のような3編のスキルアップ研修が実施されました。福祉のまちづくり研究所では、スキルアップ研修を支援する一方、H24、25にかけてチェック&アドバイス制度を取り上げて「県民参加型の点検と助言による施設改善に関する研究」と「福祉のまちづくりアドバイザー制度を強化するための指針策定」の2つの研究に取り組み、各種の施設が障害者を含めた住民に使いやすいこと、また建築設計者等の福祉に対する意識が高まることの視点で、本制度による施設改善に向けた取組みの状況とその効果を明らかにしました。

研究の結果からはバリアフリー対応についてはまだ課題が多く、施設管理者や建築家等のユニバーサルデザインについての意識啓発が必要であり、この制度はそのための手法として今後も引き続き重要な役割を果たすと考えられています。

表 スキルアップ研修の実施状況

プログラム	参加者
車いす利用者編 2013.2.13 講義「車いす利用者の声～日常場面、非日常の場面～」 体験実習〈敷居段差・スロープ勾配の体験〉 体験実習〈廊下編・開口幅・扉の形状の体験〉 研修の感想と意見交換	応募 10人 県 4人 研究所 4人 講師 1人
視覚障害者編 2013.6.25 講義「視覚障害者を知ろう・弱視の見え方・5つの誤解・うれしいサポート」 講義「視覚障害者の旅」 講義「視覚障害者の読書」 サポート体験〈視覚障害者を見かけたら〉 研修の感想と意見交換	応募 14人 県 4人 研究所 3人 講師 3人 ほか 1人
聴覚障害者編 2014.1.22 講義「聴覚障害者が感じる不便」 講義「建築、都市専門家のための聴覚障害者バリアフリーの知識」 体験実習〈音を使わない意思疎通・行動体験〉 きこえをサポートする機器紹介 研修の感想と意見交換	応募 13人 県 4人 研究所 5人 講師 2人 ほか 1人

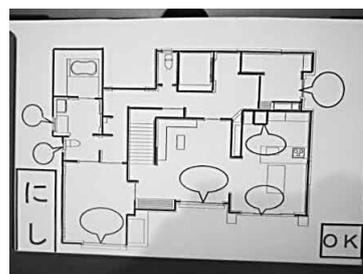
盲ろう者の自立生活支援のための インターフェースと支援機器に関する研究

研究第一グループ
特別研究員 大西俊介

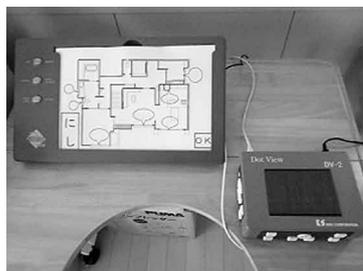
視覚および聴覚に重複した障害を持つ方を盲ろう者と呼びます。盲ろうの方は、視覚と聴覚それぞれの障害程度によって、「全盲ろう」、「盲難聴」、「弱視ろう」、「弱視難聴」の4つに分類され、さらに受障された時期によって「先天盲ろう」、「盲ベース盲ろう」、「ろうベース盲ろう」、「中途盲ろう」の4つに分類されます。このため、コミュニケーション手段、情報入手と発信手段がそれぞれの組み合わせによって異なることが特徴のひとつとしてあげられます。今回は盲ろう者の生活支援のためのシステム構築を行いました。

<ドアの開閉状態が確認できるシステムの構築>

単身生活を送る盲ろう者にとって、安全確認のために玄関ドアや各部屋の窓の開閉状況を知る作業は困難です。そこで当研究所のウェルフェアテクノハウス神戸を活用して、安全な住環境を確保する視点と当事者の利便性が大きく向上する視点から、扉や窓の計7ヶ所の開閉状態をセンサで取得し、ECS（環境制御装置）で集中管理的に確認できるシステムの構築を行いました。このシステムを作り上げる上で最も配慮した点は、情報の入手・発信手段に多様性があるため、どのような入力方法と出力方法を使うかという点でした。



市販機器の使用を考え、入力方法として自由なレイアウトでパソコンのキー入力ができる「インテリキー」を活用し、これにウェルフェアテクノハウス神戸1階の間取りを再現した立体コピー図を貼付け、どの窓がどのような状態になっているのかを入力する装置を作成しました。そして、出力方法には、小さなピンドットを出し入れすることで情報を発信する「ドットビュー」を使用し、扉や窓の開閉を○や×で表示し、指先の感覚で確認できるシステムとして構築できました。



<火災報知のための臭気発生装置の提案>

平成18年の消防法改正により、戸建住宅や共同住宅には火災報知機の設置が義務付けられました。ただし、日常の報知器は音声で知らせるものが多い現状にあります。そこで、盲ろう者や聴覚障がい者が火災発生を知ることができるよう、支援機器に対する提案として、テクノハウスの火災報知器に「臭気（ワサビ臭）発生装置」を連動させました。

これら提案したシステムの見学の要望がありましたら、福祉用具展示ホールにお声掛け頂ければと思います。



ロボットリハビリテーション促進事業

研究第二グループ
特別研究員 本田雄一郎・中村豪

2011年に兵庫県立リハビリテーション中央病院に設置されたロボットリハビリテーションセンターの活動の一環である研究開発に関して、福祉のまちづくり研究所の研究員が兼務して活動しています。平成25年度より3年間の枠組みで兵庫県からチャレンジ事業のひとつとして採択されたロボットリハビリテーション促進事業が開始され、ロボット技術をリハビリテーションに応用することで得られる効果を根拠に基づく医療(EBM)と併せて研究を進めています。ロボットリハビリテーションについては第68号アシステック通信にてその始動を紹介いたしました。本稿では、ロボットリハビリテーションセンターにて行われているロボット技術を用いたリハビリテーション訓練をより進めるため、チャレンジ枠にて利用可能となった各種機器とその利用が進み出していることを紹介していきます。

チャレンジ枠による研究推進

EBM研究の推進のために投入された評価機器は、1)高速撮影可能なビデオカメラ、2)筋肉の疲労を間接的に計測できる疲労計、3)目の動きを計測するアイトラッカー、4)ケース形状などを自在に作れる立体プリンタです。今回は計測機器を主に紹介します。

1)高速撮影可能なビデオカメラ

普通のビデオカメラと異なり、高速撮影可能なビデオカメラは、一秒間に最高960枚の画像を撮影することが出来ます。テレビ放送は毎秒30枚の画像が表示されるので、その32倍の速さでの記録です。高速撮影の利点は、人の動作を映像から分析するとき、普通のビデオカメラでは速く動く部分がぶれた画像しか得られませんが、高速撮影では、速く動く部分でもほとんどぶれることなく撮影されます。これによって撮影された画像がはっきりとするため、コンピュータを利用した自動解析も行いやすくなり、作業の手間、時間の削減に繋がります。新たに投入した動画分析ソフトと組み合わせることで、空間中の立体的な動作の軌跡を取得することも出来るようになりました。

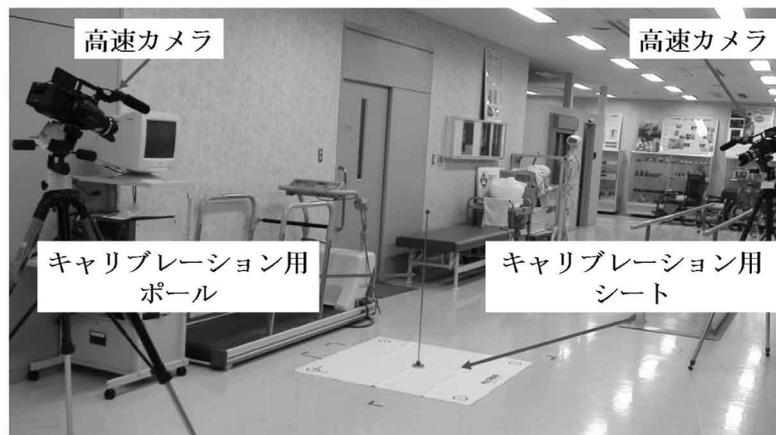


図1:高速カメラで立体的な動作の軌跡を計測するためのキャリブレーションの様子

2) 筋肉の疲労を間接的に計測できる疲労計

筋疲労の計測は、適切な筋負荷を探るため、またタスク動作により筋疲労がどのように変わっていくかを知るために利用します。赤外線センサを疲労の様子を計りたい筋肉の上の皮膚に貼り付けて使用します。手始めに、肘の曲げ伸ばしという単純なタスクの実際を行いました。その結果、負荷量に応じて酸素化・脱酸素化ヘモグロビン濃度が変化することを確認しました。

3) 目の動きを計測するアイトラッカー

リハビリテーション訓練において、患者さんや療法士がどこを見ているかを計るために用意しました。一般に、車の運転では上手くなってくると遠くを見て運転するようになると言われます。同様のことが義足をつけた歩行訓練を行う患者さんでも起こっているかもしれません。また、義手のユーザーの方達は、新たに手に入れた手先具の訓練をすることで上手にモノを掴むようになっていきます。どこを見ながら操作をして上手く掴めるようになるのか、当人でしかわからないことを目の動きを計ることで探っていこうと準備を進めています。

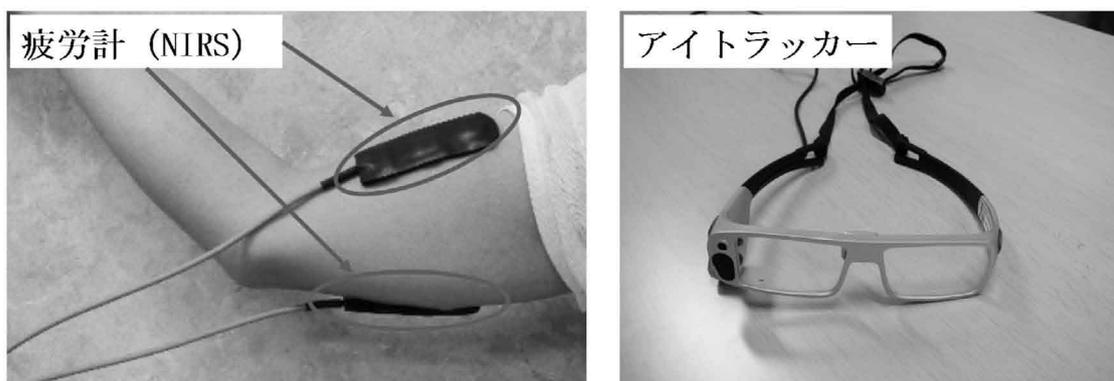


図2: 筋肉の疲労を間接的に計測する疲労計(NIRS)と目の動きを計測するアイトラッカー

今後の展望

上記の評価用計測機器を上手く組み合わせることで、患者さんたちの誰もが同じように変化する部分と個人差がでてくる部分が見つかってきます。これらを客観的に計測データから分析し、訓練をしてどんどん上手くなる人の「コツ」のようなものを見つけ出そうとしています。それがわかると、リハビリテーション訓練中にその「コツ」を患者さんにアドバイスすることで、訓練に必要な期間を短縮することができるかもしれません。また、共通して訓練が難しい部分には、新たな訓練装置を開発するニーズが見つかるかもしれません。このようなことは、研究所のエンジニアの知見だけでは実現不可能で、隣接する中央病院のスタッフと一丸となり研究を進めることで初めて行えます。

研究所単独では行えない研究開発に関して、既に何件か外部機関と連携し、商品化を目指して動いているモノが出てきています。近いうちに研究所の研究者と病院の臨床スタッフが密に協力した結果生まれてきた機器が商品として世に出てくるかもしれません。

今後もロボットリハビリテーション関連の研究者は臨床現場のスタッフの声を聞き入れた実践的な研究開発を進めていきます。

研究第一グループ

研究テーマ バリアフリーに配慮した生活道路のゾーン対策に関する提案研究

主任研究員兼研究第1グループ長 北川 博巳



福祉のまちづくりの考えも入れた、生活道路のゾーン対策への提案を目的としています。今年度はコース実験や現地調査を通じて、多様な歩行者が混在する空間の自転車速度抑制対策について、効果的な対策手法を関係機関と協力しながら提案するつもりです。

研究テーマ 障害者に配慮した無人(駅員巡回)駅の整備指針に関する研究

研究員 大森 清博



近年、全国で無人駅が増えています。本研究では様々な障害のある人が無人駅を利用する中でどのような不自由さがあるのかを整理していくと共に、そのような不自由さを改善するための整備指針をまとめていきます。

研究テーマ 高齢者の郊外居住における居住の継続に関する研究

専門員 難波 健



福祉対象の重要なテーマに高齢者への対応があります。団塊の世代が高齢化を迎える中で、郊外住宅団地に居を構えて社会を支えてきた方々が安らかに住み続けられるついの住処のあり方を、建築的・都市計画的視点と福祉的視点で研究してみようと考えております。

研究テーマ 知的障害者・発達障害者に配慮した公共空間整備に関する研究

—発達障害者に配慮した音響環境を中心に—

特別研究員 大西 俊介



知的障害や広汎性発達障害(自閉症スペクトラム症)をお持ちの方の中には、いろいろな感覚に過敏さがあり、そのことが暮らしにくさの原因になっておられることが知られています。このような方のために公共性の高い施設ではどのような配慮が必要とされており、どういった対応が出来るかといった研究に取り組みます。

研究テーマ 高齢者・障害者の日常生活における認知機能評価に関する研究

特別研究員 中園 正吾



高齢の方や障害のある方が暮らしやすいまちづくりにおいて、認知機能に応じた環境を提供することが望まれています。本年度は、タブレット端末を用いた評価システムによる検査結果を考察し、日常生活における各種の支援に対する指標の作成・提案を目指します。

研究テーマ 多様な人々に対応したオフィスの職場環境に関する研究

—ユニバーサルデザインの概念と聴覚障害者の職場環境の改善—

非常勤研究員 三谷 信之



兵庫県内の企業を対象に、聴覚障害者にも対応された職場環境のアンケートを行うとともに、ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点で建築工学上の聴覚障害者にも働きやすい職場環境づくりを提案していきます。

研究テーマ 適用除外バス車両のバリアフリーにおける乗降デバイスの提案研究等

非常勤研究員 中園 薫



長距離バスは、市内の路線バスとは異なり、バリアフリー新法の適用を除外されているため、ノンステップ化等の施策が遅れています。そこで障害者や高齢者も手軽に長距離の旅が楽しめ、バス会社の収支の向上にも資する、新しい乗降手段の提案を目指しています。

研究テーマ 福祉のまちづくり条例に基づく整備基準の評価を支援するモバイルシステムの研究

非常勤研究員 宮野 順子



兵庫県福祉のまちづくり条例には、既存の建物を対象として施設整備の点検・助言を行うチェック & アドバイス制度があります。この研究では、ipadなどのモバイル機器を活用して、現地で簡便に評価を行うことができるツールの研究開発を目指しています。

研究第二グループ

研究テーマ 三次元歩行シミュレーション技術の研究とその応用等

主任研究員兼研究第二グループ長 赤澤 康史



より良い下肢装具を提供するために歩行シミュレーション技術の応用を追求します。片麻痺の方の身体特性に適合する装具力学特性を計算で求め明解に提示する手法がその中心となります。また、臨床現場のニーズに沿った支援技術の研究にも引き続き取り組みます。

研究テーマ 障害を有することによる個別ニーズに対応した福祉用具の開発

主査(技師) 中村 俊哉



本研究では、リハセンターの連携のもと実施している実際の相談対応事例より、既存の福祉用具では対応が困難な個別のニーズに対し、福祉用具等の開発・改良を行い導入することで、障害を持つ方々の生活の質の向上を図ることを目的としています。

研究テーマ 在宅摂食嚥下リハ支援機器に関する開発研究等

研究員 原 良昭



食べ物を飲み込みにくいと誤嚥性肺炎や窒息が生じる危険性が高まります。我々は食べ物を飲み込みにくい方の食事を支援するための機器を病院や企業、大学と共同で開発しています。

研究テーマ 身体動作計測情報の遠隔地情報共有に関する研究等

特別研究員 本田 雄一郎



研究所とリハビリテーション中央病院ロボットリハビリテーションセンターとの兼務により、現場ニーズに沿った研究開発を行います。リハ訓練スタッフにとって役立つ身体動作計測装置や遠隔地でそれらの情報を共有可能な技術ベースを構築する研究を行います。

研究テーマ ロボットリハビリテーションの評価手法の開発

特別研究員 中村 豪



ロボットリハビリテーションの普及を促進するためにロボットリハビリテーションの訓練効果を科学的に証明するための研究開発を行っています。また、現場のニーズを基にロボットリハビリテーションの訓練支援装置の開発も行っています。

研究テーマ 足漕ぎ電動4輪車による高齢者の運動効果に関する研究

非常勤研究員 李 虎奎



加齢により歩行がやや困難になった高齢者や生活習慣病により運動機能障害を有する人たちが日常で使用する安全かつ身体的負担が小さい移動支援機器の開発を行っています。また搭乗者の運動量を計測し、健康維持・増進に対する効果も研究しています。

義肢装具の製作

義肢装具士 濱本 雄次

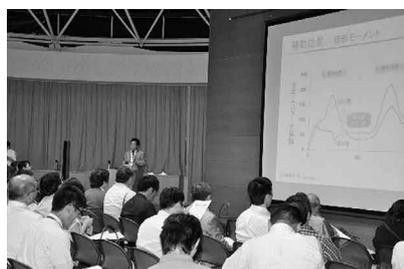


4月から企業からの出向として研究所に配属されました。長年の義肢装具製作の経験を活かし、子どもたちの夢・希望の実現に向けた小児筋電義手の製作を中心に取り組んでまいります。



—ロボット介護機器の活用と定着をめざして— ロボット介護機器展示説明会 開催される

去る6月11日(水)、福祉のまちづくり研究所において、ロボット介護機器展示説明会が開催されました。この説明会は全国4会場(北海道・東京・福岡・神戸)で、公益財団法人テクノエイド協会主催により開かれたものです。経済産業省が実施している、「ロボット介護推進プロジェクト」の一環であり、製造業者、仲介者、介護施設がチームを編成して、介護現場にロボット介護機器を導入し、効果測定と量産化を目指しているものです。説明会はそれぞれの関係者のマッチング支援が狙いであり、新たに製品化されプロジェクトの補助対象機器として見込まれている16機種が揃い、東は東京都から、西は広島県までの204名の関係者を集め、各製造業者からのプレゼンテーションや、ロボット介護機器を囲んで相互の意見交換が行われました。



介護現場の職場環境の実情と、それぞれの機器と向き合う中で、課題も多く感じるところですが、団塊世代が後期高齢者となる2025年には、4人に1人が75歳以上という超高齢社会を迎えます。またそれを支える介護人材の確保は、

それぞれの介護現場において大きな課題になっています。十分に介護現場の一助となり、活用できる機器の開発は、待ったなしの状況です。チームの取り組みで見えてきたもの、新たに芽生えた気づきを通じて、今後より介護現場が使いやすく、ユーザーにとって快適な機器開発につながっていくことが期待されます。



平成26年度研修のご案内

当課では、高齢者や障害のある人が、住み慣れた地域で、生きがいを持ち、その人らしい生活を送るために、支援する福祉・医療保険従事者に向けて、様々な研修を行っています。また、認知症介護・相談支援等、高齢化社会や障害者の自立支援を担う専門職員の人材育成にも力を入れています。以下のとおり、各研修の種類、日程等をご紹介します。なお、既に申し込み等が終了している研修は記載しておりません。

【平成26年度 介護技術・予防の知識・技術アップ研修】

研修番号	研修名	定員	日数	予定	申込締切	
A	地域支援事業プランニング研修	36名	1日間	調整中		
B	地域資源を活かす研修 ～NPO法人、ボランティアの活用方法とは～	36名	1日間	調整中		
C	地域包括ケアと地域資源研修	36名	1日間	調整中		
F	健康管理・服薬管理研修	36名	1日間	調整中		
H	生活支援研修Ⅱ ～高齢者の生活を視る力を養うために～	36名	1日間	8月1日(金)	7月11日(金)	
I	住環境調整研修	36名	1日間	調整中		
J	食事支援の研修Ⅰ ～栄養管理と口腔ケア～	36名	1日間	調整中		
K	食事支援の研修Ⅱ ～認知症の食のケア～	36名	1日間	11月頃		
M	介護技術ステップアップ研修 STEP1 ～健康的な生活に必要な姿勢と動作を学ぶ～ ※専用申込書で申し込んでください	第3回	36名	1日間	8月14日(木)	7月24日(木)
		第4回	36名	1日間	9月18日(木)	8月27日(水)
		第5回	36名	1日間	10月16日(木)	9月25日(木)
		第6回	36名	1日間	11月21日(金)	10月31日(金)
		第7回	36名	1日間	12月20日(土)	11月28日(金)
N	介護技術ステップアップ研修 STEP2 ～トータルケアの重要性を理解する	第1回	36名	1日間	8月29日(金)	8月8日(金)
		第2回	36名	1日間	11月13日(木)	10月23日(木)
		第3回	36名	1日間	1月16日(金)	12月19日(金)
O	介護技術ステップアップ研修 STEP3 ～安心できる快適で満足度の高い生活を考える～	第1回	36名	2日間	11月26日(水) ～27日(木)	11月5日(水)
		第2回	36名	2日間	2月12日(木) ～13日(金)	1月22日(木)
Q	福祉用具のポイント研修 ～実践編(ケアプランに活かす福祉用具とは)	36名	1日間	11月頃		
R	姿勢管理の基礎研修	30名	2日間	7月23日(水) ～24日(木)	7月2日(水)	
S	地域ケア会議推進研修	36名	1日間	調整中		
U	医療と介護連携研修(退院時調整)	36名	1日間	調整中		
V	高次脳機能障害研修(入門編)	48名	2日間	9月19日(金) ～20日(土)	8月28日(木)	
W	高次脳機能障害研修(専門編)	100名	1日間	調整中		
Y	腰痛予防研修	調整中				
Z-1	ターミナル研修<入門編> ～そのひとらしく生きることを支えるために～	100名	1日間	10月4日(土)	9月12日(金)	
Z-2	ターミナル研修<実践編> ～そのひとらしい最期を生き抜くためのターミナルケアの実践～	36名	1日間	10月7日(火)	9月16日(火)	
10	褥瘡予防研修	36名	2日間	9月11日(木)～ 12日(金)	8月21日(火)	

【平成26年度 介護保険に規定する認知症介護研修事業】

研 修 名	募集 定員	日 程	申込締切
第3回認知症介護実践研修(実践者研修)	60	8月27日(水)～11月21日(金)	7月30日(水)
第4回認知症介護実践研修(実践者研修)	60	10月15日(水)～1月27日(月)	9月17日(水)
第2回認知症介護実践研修(実践リーダー研修)	30	10月20日(月)～2月27日(金)	9月19日(金)
認知症対応型サービス事業開設者研修	30	1月15日(木)～2月19日(木)	12月4日(木)
第2回認知症対応型サービス事業管理者研修	30	8月12日(火)～8月20日(水)	7月15日(火)
第3回認知症対応型サービス事業管理者研修	30	11月18日(火)～11月20日(木)	10月21日(火)
第4回認知症対応型サービス事業管理者研修	30	1月22日(水)～1月29日(木)	12月18日(木)
小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	60	2月4日(水)～2月5日(木)	12月22日(月)
自主リーダー研修フォローアップ	40	調 整 中	調整中

【平成26年度 兵庫県相談支援従事者初任者研修・サービス管理責任者等研修】

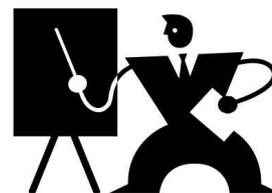
6月2日(月)をもちまして、募集を締め切らせていただきました。例年を上回る多数の申し込みがありました。

【平成26年度 兵庫県相談支援従事者現任研修】

平成27年2月ごろ開催を予定しております。詳細は、決定次第ホームページに掲載します。

【平成26年度 兵庫県強度行動障害支援者養成研修】

平成26年4月から、重度訪問介護の対象拡大により、在宅の行動障害を有する方が利用できる障害福祉サービスに重度訪問介護が加わることとなりました。これにより、在宅の行動障害を有する方の支援に携わる相談支援、行動援護、重度訪問介護等の事業所間の連携や知識・意識等の向上が重要となります。そこで、当課では兵庫県の委託を受け、平成27年1月頃に、強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)を予定しております。要項、定員等は、決定次第ホームページに掲載します。



※研修の募集案内の詳細及び申込書は、こちらのホームページよりダウンロードしてください。

[<http://www.hwc.or.jp/kensyuu/>]

※研修名等、都合により変更する場合があります。詳細はホームページをご確認ください。

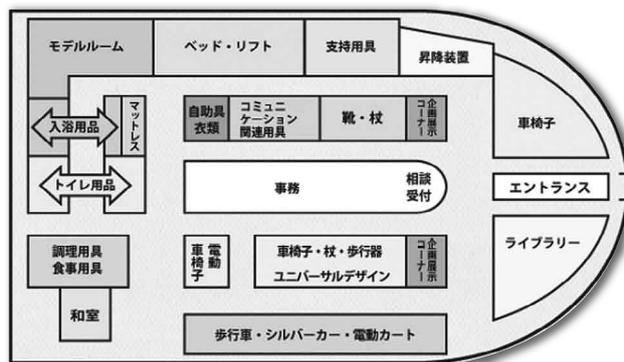
※調整中の研修については、決定次第ホームページに掲載しますので、ご確認ください。

福祉用具展示ホール・ウェルフェアテクノハウス神戸

福祉用具展示ホールは、福祉のまちづくり研究所1階にあり、約1,200点の福祉用具を展示しております。どなたでも、実際に**見て、触れて、試して**いただくことができます。研究員やセラピストなど、総合リハビリテーションセンター内の多職種で連携を強化して相談対応も行っています。どうぞお気軽にお越しください。



展示ホール入り口



案内図

福祉人材の育成及びユニバーサル社会作りに向けて、**見学・研修・体験学習**等も行っています。体験学習では、車いす体験や高齢者・脳血管障害者(片麻痺)・視覚障害者の疑似体験を通じて、生活障害の理解を深められるように取り組んでいます。



車いす体験



高齢者疑似体験

体験者の声

- ★デコボコ道や坂道が怖かった。
- ★介助者の声掛けがないと不安を感じた。
- ★不自由さを実感できた。
- ★体験したことで、思いやりの気持ちを持って接することができそう。

ユニバーサルデザインって知っていますか??

『どこでも』『いつでも』『自由に』『安全に』『単独で』誰もが公平に利用できるデザインのことをいいます。そのような製品の展示も行っています。ユニバーサルデザインの対象は年齢や障害の有無に関係ありませんので、「福祉用具は必要ないわ」と思われる方も、是非一度見に来てください。生活に便利な用具に出会えるかもしれません。

詳しくは、福祉のまちづくり研究所 家庭介護・リハビリ研修センター課のホームページをご覧ください。福祉用具展示ホールに展示してある福祉用具や、見学・体験について掲載されています。

<http://www.hwc.or.jp/kensyuu/>

ウェルフェアテクノハウス神戸は、様々な福祉・介護機器を設置し、実際に見学・試用していただくことで、障害のある方や高齢の方がより快適な生活をイメージして頂けるようになっています。



テクノハウス外観



キッチン



居室

開館日：月曜日～金曜日（祝日、12月29日～1月3日を除く）の9:00～17:30
案内が必要な際は事前にご連絡をお願いいたします。



スタッフ紹介



☆研修センター事務室☆

(左上から)	(左下から)
開発指導員 谷垣 貴司	研修推進担当課長 吉田 泉
開発指導員 酒井 和子	課 長 木立真由美
事務員 山口 幸子	専門員 松浦 剛
作業療法士 福元 正伸	
事務員 谷口 里美	



☆福祉用具展示ホール☆

(左上から)	(左下から)
事務員 松本 初子	事務員 美馬麻梨子
事務員 市村チズ子	事務員 伊藤 美里
開発指導員 伊藤 有希	
事務員 秋田 千加	

ぽんぽんわーど®
わーど



きょぎょすくい

画面を“とんとん”、スイッチを“ぼんぼん”。
金魚をたくさんすくっちゃおう！
外部スイッチやスイッチコントロール機能
に対応。利用者に合わせて設定で、達成感や意
欲をスモールステップで引き出します。



ぽんぽんわーど® 金魚すくいゲーム for iPhone / iPad
まずは、無料でお試ください！

共同開発先：(株)ユープラス、(特非)e-AT利用促進協会、(株)システムワークス
お問い合わせ：トーキングエイド Café (<http://www.talkingaid.net/>)

※掲載のロゴおよび画像、商標は、米国 Apple Inc.、(株)ユープラスにそれぞれ帰属します。

いつまでも美味しく食べたい思いへのサポート

イージースワロー



美味しく食べるには頭頸部の姿勢の調整が重要です。
イージースワローをご利用して頂くことで、食事
における頭頸部の姿勢を簡単に調節・再現できるよう
になります。



共同開発先：浜松市リハビリテーション病院、兵庫県立リハビリテーション西播磨病院、
兵庫県立総合リハビリテーション中央病院、(株)甲南医療器研究所
お問い合わせ：(株)甲南医療器研究所 (<http://easyswallow.jp/>)

※掲載のロゴおよび画像は、(株)甲南医療器研究所に帰属します。

携帯型情報端末を活用した支援のヒントブック

iPod touch やiPad を活用した知的障害児支援をこれから始めるときに役立つヒントブックを制作しました。機器の選び方や環境整備、また、支援の中で起こるかもしれないトラブルとその対策をまとめています。当研究所のホームページからダウンロードできます。

<http://www.assistech.hwc.or.jp/kenkyu/publication.html>



ひょうごユニバーサル社会づくり推進大会

第22回福祉のまちづくりセミナー



糸賀一雄氏 生誕100周年を記念して

糸賀一雄さんのことと私たちのこと

社会福祉法人グロー理事長 北岡 賢剛 氏
(元滋賀県社会福祉事業団 理事長)

戦後混乱期の障害者福祉の先駆者であり、近江学園の創設や「この子らを世の光に」で知られる糸賀一雄氏の生誕から100年を迎え、糸賀氏の思想や実践を学び、今も滋賀県で福祉の活動を続け、障害者の芸術活動にも貢献されている北岡賢剛氏を迎えてお話いただきます。

と き 平成26年7月30日(水) 13:30~16:30(セミナーは15:00から)

と ころ 兵庫県公館(神戸市中央区市も山手通4-4-1)

対 象 どなたでもご参加いただけます **参加費** 無 料

※お申込み・お問い合わせは企画情報課まで

企画情報課スタッフ紹介

今年度もよろしく
お願い致します



課長補佐 後田耕司

課長 水口信宏

事務補助 田中亜由美

小児筋電義手バンク設立のご案内とお願い

兵庫県立リハビリテーション中央病院ロボットリハビリテーションセンターでは、上肢を欠損した子どもたちの発育に有効な筋電義手の普及を図るため、小児筋電義手バンクを設立しました。筋電義手訓練に要する、義手の確保、メンテナンス、貸し出し費用等に対して、皆様方の心温まるご寄付をお待ちしております。



お問い合わせは、
兵庫県立リハビリテーション中央病院管理部経営企画課まで

TEL 078-927-2727 FAX 078-925-9203

アシステック通信

第71号(平成26年7月)

[編集・発行]

社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団
総合リハビリテーションセンター
兵庫県立福祉のまちづくり研究所

〒651-2181 神戸市西区曙町1070
TEL 078-927-2727(代) FAX 078-925-9284
<http://www.assistech.hwc.or.jp>

編集
後記

「企業は人なり」と言われてきた言葉も、今では福祉の領域においても「福祉は人なり」と当たり前のように使われています。2025年問題を目前に、超高齢社会を支える次世代のより良い人材を、どう確保し、育成していくのか?生産労働人口の著しい減少に向けて、発想の転換期を迎えていることを、ロボット関連事業をきっかけに寄せられる様々な事業所の声から感じるところです。

アシステック通信編集委員長 水口 信宏